

『だれかの笑顔のために』

平和への誓い

被爆から80年を迎えた8月6日、広島市の平和記念公園で開かれた平和記念式典で、子ども代表の小学校6年生の二人が「平和の誓い」を読み上げました。



いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのか分からぬくらい皮膚がただれた人々。

涙とともに止まらない、絶望の声。

一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時間が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようすること。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないかでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

令和7年（2025年）8月6日

こども代表 広島市立皆実小学校6年 関口千恵璃 広島市立祇園小学校6年 佐々木駿

子ども代表の二人の次のような思いも、報道等で知ることができました。

関口さん：「子どもよりも大人はたくさんの知識を持っていて、でもその人たちが何でこんなに悲惨な戦争を引き起こしてしまったんだろうということは感じたりしていました」

佐々木くん：「何が正しいか何が違うとかじゃなく、ただ事実を知ってほしいので、戦争の悲惨さや平和の大切さについて伝えたい」

佐々木君は、小学2年生の頃から、得意な英語をつかって平和記念公園を訪れた外国の方に向けてボランティアガイドをされています。その行動力に頭が下がるとともに、平和を守るため、私たちにもできることがあるということを教えてされました。

